

■研究・実践の課題（テーマ）

実務者のための栄養ケアプロセス研修会

■主任研究者 塚原丘美

■共同研究者 立花詠子、畠山桂吾

■研究・実践の目的、方法、結果、考察や提案等の概要

【目的】管理栄養士として対象者への栄養ケアにどのようなアプローチが必要なのか？短期集中的にグループディスカッション等をする中で、広い視野をもって患者さんの栄養管理計画を作り、どのようなアウトカムを期待して PDCA を回していくのかを深く検討できるように、ベーシックトレーニングと分野別ワークショップの 2 部形式で研修会を開催した。

【方法】

対 象： 医療・福祉分野で栄養管理を行っている実務者（管理栄養士）

日 時： 2022 年 2 月 19 日（土）10：00～15：00

場 所： オンライン(zoom)

1 部 10：00～12：00 ベーシックトレーニング

「 栄養管理の第一歩～これから取り組む方のためのフィジカルアセスメント～ 」

講師：日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 林 衛 先生

司会進行：畠山桂吾

2 部 13：00～15：00 分野別ワークショップ（下記 3 分野）

①急性期（ICU、術後、輸液、がん、NST）

「【症例から学ぶ】栄養は栄養士がする！ ―栄養は攻めと情熱で挑め―」

浜松医科大学医学部附属病院 位田 文香 先生

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 林 衛 先生

司会進行：塚原丘美

②慢性期（栄養指導(DM・CKD 等)、リハビリテーション栄養、給食管理)

「患者の気持ちを掴む栄養介入～今日から使えるコミュニケーション術～」

医療法人社団順心会 井上病院 角谷 亜矢 先生

愛知医科大学病院 原 なおり 先生

司会進行：立花詠子

③高齢者（施設、フレイル、嚥下障害、認知症、サルコペニア、重度要介護）

「高齢者の摂食嚥下障害を考える―医療と福祉の壁をぶち壊せ！―」

社会福祉法人英楽会 楓林花の里 小島 三枝 先生

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 伊藤 朱音 先生

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 畠山 桂吾

【結果・まとめ】

今回は2部制に分けて行った。午前中のベーシックトレーニングには44名（うちスタッフ9名を含む）が参加した。午後は3つの分野を設けて参加者の希望の分野に参加いただいた。急性期分野は25名（うちスタッフ3名を含む）、慢性期分野は13名（うちスタッフ3名を含む）、高齢者分野は9名（うちスタッフ3名を含む）が参加した。

終了後のアンケートより、午前、午後のどちらも、参加当初の目的が達成されていた。また、理解度も受講前と比べて受講後は上がっていた。特に午後は分野別にしたため、自分の業務内容と近い分野に参加することで、目的が達成させやすかったのかもしれない。全体を通して非常に有意義な研修であったと考える。

今年度も、リモート開催となってしまったが、遠方でも参加しやすいというメリットとディスカッションするのは難しいというデメリットの両方がある。リモート開催のため参加を取りやめた者もいることから、感染状況次第ではあるが、リモートと対面、両方で開催できる方法を今後検討していく必要がある。